



平成29年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成28年10月14日

上場会社名 松竹 株式会社 上場取引所 東 札 福
 コード番号 9601 URL http://www.shochiku.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 迫本 淳一
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 関根 康 TEL 03-5550-1699
 四半期報告書提出予定日 平成28年10月14日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年2月期第2四半期の連結業績（平成28年3月1日～平成28年8月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年2月期第2四半期	47,819	0.0	4,168	△9.0	3,714	△11.8	2,321	△14.0
28年2月期第2四半期	47,808	0.0	4,581	△8.5	4,212	△3.6	2,697	△9.3

(注) 包括利益 29年2月期第2四半期 1,908百万円 (△62.0%) 28年2月期第2四半期 5,021百万円 (17.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年2月期第2四半期	16.89	—
28年2月期第2四半期	19.63	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年2月期第2四半期	195,372	81,940	41.9	595.73
28年2月期	197,009	80,594	40.9	585.92

(参考) 自己資本 29年2月期第2四半期 81,872百万円 28年2月期 80,529百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年2月期	—	0.00	—	4.00	4.00
29年2月期	—	0.00	—	—	—
29年2月期(予想)	—	—	—	3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成29年2月期の連結業績予想（平成28年3月1日～平成29年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	93,620	1.2	5,420	△26.8	4,460	△32.2	2,760	△29.2	20.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー 社（社名） ー 除外 ー 社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年2月期2Q	139,378,578株	28年2月期	139,378,578株
② 期末自己株式数	29年2月期2Q	1,947,926株	28年2月期	1,938,449株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年2月期2Q	137,435,809株	28年2月期2Q	137,452,631株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する説明	2
(2) 連結財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、個人消費は消費者マインドに足踏みがみられ、おおむね横ばいで推移したものの、設備投資の持ち直し、雇用情勢の改善等から、緩やかな回復基調が続きました。

このような状況下、当企業グループはより一層の経営の効率化を図り、積極的な営業活動を展開しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間は、売上高47,819百万円(前年同期比0.0%増)、営業利益4,168百万円(同9.0%減)、経常利益3,714百万円(同11.8%減)となり、特別利益39百万円、特別損失58百万円を計上し、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,321百万円(同14.0%減)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(映像関連事業)

配給は、ODSを含む邦画13本、洋画3本、アニメ7本、シネマ歌舞伎、METライブビューイングとパラエティに富んだ作品を公開しました。3月公開の「家族はつらいよ」は、「男はつらいよ」シリーズから20年振りとなる山田洋次監督による喜劇作品で、日本中に笑いを届けました。5月公開の「殿、利息でござる!」は、実話をもとにした歴史エンターテインメントとして注目を集めヒットとなり、6月公開の「植物図鑑 運命の恋、ひろいました」は、岩田剛典(EXILE/三代目J Soul Brothers)と高畑充希のW主演で、10~20代女性に支持され大ヒットとなりました。7月公開の「HiGH&LOW THE MOVIE」はEXILE TRIBEをはじめ豪華キャストが出演し、映画だけではなくTVドラマ・コミック・SNS・ライブ等様々なメディアコンテンツが展開される総合エンターテインメントプロジェクトとして、大きな話題を集めました。

興行は、劇場宣伝の強化と、競合館との差別化を推進しました。その結果、ヒット作品については堅調に動員、また、自社配給作品の最大化に取り組んだことも売上に大きく貢献し、好成績を収めました。

テレビ制作は、地上波にて、シリーズ企画「必殺仕事人2016」「司法教官 穂高美子5」、中村吉右衛門主演で長年放映され、今回でシリーズ終了となる「鬼平犯科帳スペシャル13 前後篇」、市川海老蔵主演の連続時代劇「石川五右衛門」、BSにて、情報番組「片岡愛之助の解明!歴史捜査」等を受注制作しました。

映像ソフト、テレビ放映権販売、海外向け作品販売、CS放送事業等は堅調に推移しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は27,518百万円(前年同期比3.5%増)、セグメント利益は2,395百万円(同3.4%減)となりました。

(演劇事業)

歌舞伎座は、五代目中村雀右衛門襲名披露公演となる「三月大歌舞伎」、尾上菊之助長男の寺嶋和史の初お目見得が話題を呼んだ「團菊祭五月大歌舞伎」は、ともに豪華な出演者が揃い盛況となりました。新開場後の歌舞伎座初の宙のりが話題となった「六月大歌舞伎」では「義経千本桜」を三人の主人公にスポットを当てた三部制興行で上演し、「七月大歌舞伎」は市川海老蔵と市川猿之助の組み合わせで大人気の興行となりました。「八月納涼歌舞伎」は若手花形俳優が勢揃いとなった公演となり、大盛況となりました。また「四月大歌舞伎」では夢枕獺原作の「幻想神空海」、「八月納涼歌舞伎」では笑福亭鶴瓶の新作落語の舞台化「廓嘶山名屋浦里」、ラスベガス公演もとりこんだ「東海道中膝栗毛」等、新作歌舞伎の上演が続き話題となりました。

新橋演舞場は、3月の劇団☆新感線との共催公演「乱鶯」に始まり、4月、5月連続公演の滝沢秀明主演の「滝沢歌舞伎2016」は、V6三宅健の出演も得て大盛況の公演となりました。また、6月の「東京喜劇 熱海五郎一座」、7月のOSK日本歌劇団による「レビュー夏のおどり」、藤山寛美二十七回忌追善と銘打ちました「松竹新喜劇 爆笑七夕公演」、8月の尾上松也演舞場初主演公演となるミュージカル「狸御殿」と続き、新橋演舞場の公演レパートリーの広さを印象付けました。

大阪松竹座は、3月の市川猿之助主演スーパー歌舞伎II(セカンド)「ワンピース」は、昨年の新橋演舞場での大盛況を受けての上演で大きな話題を集めました。4月、8月は恒例となりました関西ジャニーズJr.公演が連日満員の盛況となりました。5月前半はOSK日本歌劇団「レビュー春のおどり」、後半は藤山寛美二十七回忌追善と銘を打った「松竹新喜劇」を上演し、6月には「七変化ねずみ小僧捕物帳」を浅野ゆう子主演で上演し話題を集めました。恒例の「七月大歌舞伎」は五代目中村雀右衛門襲名披露公演として華やかな舞台が好評を博しました。

南座につきましては、安全性向上を図る工事を行うため休館しております。

その他の公演は、6月の渋谷・コクーン歌舞伎第十五弾「四谷怪談」は大盛況の公演となり、三越劇場「新派特別公演」では「深川の鈴」と「国定忠治」を上演しました。7月のサンシャイン劇場「グレート・ギャツビー」はF・スコット・フィッツジェラルドの名作をオリジナルミュージカルとして舞台化し、名古屋、京都、神戸と巡演しました。

巡業公演では、4月に行われました四代目中村鴈治郎襲名披露「四国こんびら歌舞伎大芝居」が盛況な公演となり、7月には公文協主催の「松竹大歌舞伎」にて、市川染五郎を中心の東コースと中村時蔵、尾上松緑中心の中央コースで全国を回りました。

受託製作では、博多座にて4月にスーパー歌舞伎Ⅱ（セカンド）「ワンピース」を製作し、「六月博多座大歌舞伎」は五代目中村雀右衛門襲名披露公演として行いました。明治座では、尾上菊之助、中村勘九郎、中村七之助ら若手花形俳優を中心とした人気の舞台「四月花形歌舞伎」、5月には中村橋之助主演の「御宿かわせみ」を製作しました。また、新たな試みといたしまして、4月末に行われたニコニコ超会議に於いて、超歌舞伎「今昔饗宴千本桜」を製作し、映像の先端技術と古典歌舞伎の融合を実現させました。

シネマ歌舞伎、ME Tライブビューイング、その他演劇事業は、堅調に推移しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は11,874百万円（前年同期比8.4%減）、セグメント利益は757百万円（同32.0%減）となりました。

（不動産事業）

不動産賃貸は、歌舞伎座タワー、築地松竹ビル（銀座松竹スクエア）、新宿松竹会館（新宿ピカデリー）、有楽町センタービル（マリオン）、松竹倶楽部ビル、大船の松竹ショッピングセンター、新木場倉庫、大阪松竹座（地下飲食街）等が引き続き満室稼働し、東劇ビルの稼働率もほぼ100%となり、安定収入に貢献しました。また、各テナントとの賃料改定交渉にも誠実に対応し、利益の確保に努めました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は5,118百万円（前年同期比1.1%増）、セグメント利益は2,230百万円（同12.6%増）となりました。

（その他）

プログラムは「殿、利息でござる!」「植物図鑑 運命の恋、ひろいました」「HiGH&LOW THE MOVIE」等の自社配給作品の売上が好調で収益に貢献しました。キャラクター商品は「機動戦士ガンダムTHE ORIGIN III 暁の蜂起」「機動戦士ガンダム サンダーボルト DECEMBER SKY」「たまゆら～卒業写真～第4部 朝-あした-」等のアニメ作品がコアファンを中心に安定した収益を挙げました。また、「歌舞伎ふなっしー」に続くキャラクターコラボ商品として「リラックマ歌舞伎」商品を展開し、好調に推移しました。

イベント事業は、ホラーイベントが初の海外進出（中国 重慶市）を果たし、ジャパニーズホラーと呼ばれる日本独自の文化を発信し、大人気となりました。国内では昨年引き続き、東京タワーにてホラーイベント「東京タワーに伝わる怪奇 感視カメラ」等を開催し好評を博しました。また、ホテルグレイスリー京都三条にて、歌舞伎の世界を体感できるコンセプトルーム「歌舞伎ルーム」の企画・デザイン等、空間プロデュースを行いました。

貸衣裳事業、清掃事業及び舞台大道具製作事業は堅調な成績をあげております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は3,307百万円（前年同期比3.4%増）、セグメント利益は103百万円（同64.0%減）となりました。

（2）連結財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ1,637百万円減少し、195,372百万円となりました。これは主に受取手形及び売掛金が増加したものの、現金及び預金及び投資有価証券の減少等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ2,982百万円減少し、113,432百万円となりました。これは主に短期借入金の減少等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ1,345百万円増加し、81,940百万円となりました。これは主に利益剰余金の増加等によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年2月期の連結業績予想につきましては、当第2四半期連結累計期間の業績及び今後の見通しを検討した結果、現時点においては平成28年4月14日付「平成28年2月期 決算短信」にて発表いたしました連結業績予想からの変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（企業結合に関する会計基準等の適用）

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,523	11,833
現金及び預金(責任財産限定対象)	10,215	10,712
信託預金(責任財産限定対象)	3,259	3,290
受取手形及び売掛金	6,949	9,344
商品及び製品	1,433	1,586
仕掛品	2,803	4,050
原材料及び貯蔵品	75	77
その他	3,727	3,160
貸倒引当金	△13	△11
流動資産合計	42,974	44,042
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	18,329	17,910
建物及び構築物(責任財産限定対象)(純額)	20,063	19,622
信託建物(責任財産限定対象)(純額)	11,345	10,943
設備(純額)	10,024	9,641
土地	22,131	22,131
信託土地(責任財産限定対象)	18,751	18,751
その他(純額)	5,539	5,515
有形固定資産合計	106,185	104,517
無形固定資産		
その他	2,851	2,880
無形固定資産合計	2,851	2,880
投資その他の資産		
投資有価証券	22,944	22,281
長期前払費用(責任財産限定対象)	13,504	13,356
退職給付に係る資産	579	540
その他	8,192	7,977
貸倒引当金	△222	△224
投資その他の資産合計	44,997	43,931
固定資産合計	154,034	151,329
資産合計	197,009	195,372

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,309	8,026
短期借入金	7,200	4,110
1年内返済予定の長期借入金	6,977	7,601
1年内返済予定の長期借入金(責任財産限定)	1,631	1,631
未払法人税等	807	1,227
賞与引当金	442	345
その他	9,222	8,163
流動負債合計	33,590	31,106
固定負債		
社債	1,100	1,100
社債(責任財産限定)	500	500
長期借入金	23,040	23,362
長期借入金(責任財産限定)	39,247	38,432
役員退職慰労引当金	781	825
退職給付に係る負債	1,119	1,176
資産除去債務	1,273	1,300
その他	15,762	15,628
固定負債合計	82,824	82,325
負債合計	116,415	113,432
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,018	33,018
資本剰余金	30,135	30,136
利益剰余金	11,740	13,508
自己株式	△1,344	△1,355
株主資本合計	73,549	75,308
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,937	6,510
退職給付に係る調整累計額	41	53
その他の包括利益累計額合計	6,979	6,564
非支配株主持分	65	67
純資産合計	80,594	81,940
負債純資産合計	197,009	195,372

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年8月31日)
売上高	47,808	47,819
売上原価	27,343	26,849
売上総利益	20,465	20,970
販売費及び一般管理費	15,883	16,801
営業利益	4,581	4,168
営業外収益		
受取利息	10	6
受取配当金	179	187
持分法による投資利益	31	—
貸倒引当金戻入額	61	2
その他	60	85
営業外収益合計	342	282
営業外費用		
支払利息	573	478
借入手数料	94	110
持分法による投資損失	—	6
その他	43	140
営業外費用合計	711	736
経常利益	4,212	3,714
特別利益		
受取和解金	—	39
固定資産受贈益	500	—
特別利益合計	500	39
特別損失		
固定資産除却損	69	58
固定資産圧縮損	500	—
和解金	80	—
特別損失合計	649	58
税金等調整前四半期純利益	4,062	3,695
法人税、住民税及び事業税	1,158	1,274
法人税等調整額	209	97
法人税等合計	1,367	1,371
四半期純利益	2,695	2,323
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△2	2
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,697	2,321

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年3月1日 至 平成27年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年3月1日 至 平成28年8月31日)
四半期純利益	2,695	2,323
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,321	△427
退職給付に係る調整額	1	12
持分法適用会社に対する持分相当額	2	0
その他の包括利益合計	2,325	△415
四半期包括利益	5,021	1,908
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,023	1,906
非支配株主に係る四半期包括利益	△2	2

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	4,062	3,695
減価償却費	2,617	2,599
賞与引当金の増減額(△は減少)	△98	△96
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	7	44
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△221	55
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	136	56
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△62	1
受取利息及び受取配当金	△189	△194
支払利息	573	478
持分法による投資損益(△は益)	△31	6
受取和解金	—	△39
固定資産受贈益	△500	—
固定資産除却損	69	58
固定資産圧縮損	500	—
和解金	80	—
売上債権の増減額(△は増加)	△1,249	△2,393
たな卸資産の増減額(△は増加)	△435	△1,401
仕入債務の増減額(△は減少)	2,360	716
その他	△312	△40
小計	7,307	3,547
利息及び配当金の受取額	213	244
利息の支払額	△563	△475
法人税等の支払額	△1,472	△947
和解金の受取額	—	39
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,483	2,408
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△172	△172
定期預金の払戻による収入	172	172
現金及び預金(責任財産限定対象)の増減額(△は増加)	△1,009	△497
信託預金(責任財産限定対象)の増減額(△は増加)	△165	△30
有形固定資産の取得による支出	△380	△553
無形固定資産の取得による支出	△87	△124
関係会社株式の取得による支出	△466	△52
貸付金の回収による収入	98	98
その他	△18	△91
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,030	△1,251

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年3月1日 至 平成27年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年3月1日 至 平成28年8月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△867	△3,090
長期借入れによる収入	6,590	5,000
長期借入金の返済による支出	△3,539	△4,060
長期借入金 (責任財産限定) の返済による支出	△815	△815
社債の発行による収入	1,082	—
社債の償還による支出	△1,100	—
リース債務の返済による支出	△252	△294
割賦債務の返済による支出	△28	△28
自己株式の売却による収入	—	1
自己株式の取得による支出	△11	△11
配当金の支払額	△548	△549
財務活動によるキャッシュ・フロー	509	△3,848
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	3,962	△2,690
現金及び現金同等物の期首残高	9,552	14,329
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,514	11,638

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成27年3月1日至平成27年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	26,585	12,960	5,064	3,198	47,808	—	47,808
セグメント間の内部売上高又は振替高	82	54	830	2,349	3,316	△3,316	—
計	26,667	13,015	5,895	5,547	51,125	△3,316	47,808
セグメント利益	2,479	1,113	1,981	287	5,860	△1,279	4,581

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売、音楽著作権の利用開発・許諾、不動産の管理・清掃等であります。
2. セグメント利益の調整額△1,279百万円には、セグメント間取引消去12百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,292百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成28年3月1日至平成28年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	27,518	11,874	5,118	3,307	47,819	—	47,819
セグメント間の内部売上高又は振替高	107	69	842	2,154	3,173	△3,173	—
計	27,625	11,943	5,961	5,461	50,993	△3,173	47,819
セグメント利益	2,395	757	2,230	103	5,486	△1,318	4,168

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売、音楽著作権の利用開発・許諾、不動産の管理・清掃等であります。
2. セグメント利益の調整額△1,318百万円には、セグメント間取引消去34百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,353百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。